

内水面漁協の活性化に関する研究—那珂川流域におけるアユの買い取り販売の事例について— (令和4年度)

吉田豊・小原明香

要 約

那珂川流域の川魚店 12 軒におけるアユの買い取り・販売等の状況を調査した結果、8 軒で買い取りをしていることが確認され、その合計重量は 1,198kg (那珂川の釣り及び投網によるアユ漁獲量の 1.2%)、平均買い取り額は 2,817 円で、買い取り総額は推定で 364 万円であった。これらの販売総額は 722 万円で、販売方法は塩焼きに加工して販売されるものが大部分であった。また、店主が自ら漁獲しているアユを販売しているところも 2 軒あり、これらも含めると川魚店を通じて販売される那珂川の天然アユは 1,538kg で、販売総額 973 万円であった。聞き取りを行った川魚店の多くではバブル経済の崩壊や、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故等が契機となって天然アユの需要が大幅に減ったとの意見が聞かれた。一方でイベント等直接消費者の元に出向いて那珂川の天然アユの魅力を伝えることで売り上げを確保している事例もあった。

本研究は (一財) 東京水産振興会および (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所「内水面漁協の活性化に関する研究 研究成果報告書」の一環として実施し、詳細は (一財) 東京水産振興会のホームページ (下記 URL) に掲載した。

https://naisuimen.suisan-shinkou.or.jp/pdf/report_2303.pdf

(指導環境室)